

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671700270		
法人名	医療法人 中西内科クリニック		
事業所名	グループホーム山川		
所在地	徳島県吉野川市山川町川東80番地		
自己評価作成日	令和2年8月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は高越山のももとに位置し、自然豊かで四季折々の風景を目にする事が出来ます。平坦な立地を生かして周辺を散歩したり、地域の行事や催しに参加の他、地域に密着した事業所を目指しています。そして入居者様一人ひとりに寄り添いながら個別ケアを行い、隣接する医療機関と連携して入居者様一人ひとりの状態に応じた健康管理を図り24時間連絡体制を構築しております。入居者様、ご家族様が安心して過ごせるように支援体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、河川近くに位置し、敷地内に同一法人の運営する医療機関や他サービス事業所が併設している。利用者が尊厳ある人生を送ることを目的とした理念を掲げ、これまでの生活の延長として、生活習慣を大切に捉えている。本人が大切にしているものや趣味などを把握・共有し、利用者ができることの維持や向上に向けて、支援している。地域住民とは、日ごろから交流し、災害時にも地域の協力を得るよう体制整備に努めている。感染症(コロナ等)の流行下においても、地域住民に干し柿用の洗柿を依頼するなど、交流が途切れないよう努めている。また、家族が安心して過ごすことができるように、電話の機会を増やしたり、短時間でも利用者と家族等が顔をあわせることができるよう工夫したりしている。また、従来の運営推進会議が開催できないなかでも、事業所の運営について職員間で話しあい、現状でできることに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念の意味を理解し支援の根本としている。理念を共有して実践につなげることが出来るように事務所内に掲げミーティング時に復習する事で、職員の意識向上を図っている。	事業所では、地域密着型サービスの意義をふまえ、職員間で話しあって作成した理念を掲げている。理念に基づいて、具体的な方針も掲げている。玄関に理念を掲示したり、朝礼で理念や方針について話しあう機会を設けたりして、理念の共有化を図り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員さんを通して、干し柿用の渋柿を地域の方に分けて頂いたり、地域の文化祭に出展や保育園の園児達との交流も予定している(コロナの為、今年度は中止となり翌年行う予定)。	事業所では、地域の保育園の運動会に出かけたり、ボランティアグループの来訪を受け入れたりして交流を図っている。地域の文化祭に利用者の作品を出展し、鑑賞にも出かけている。感染症(コロナ等)の流行下においては、民生委員と情報交換したり、野菜の差し入れを受けたりして交流が途切れることのないよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内に相談窓口を設けている。在宅生活を続けているが認知症が出現し始めている方のご家族が来訪され相談を受けたりしていた。(コロナの影響で本部からの指示により現状訪問はお断りしている。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や民生委員・警察官・市の担当者の参加を得、意見交換を行っていたがコロナウィルス感染予防の為 R2.3月～主に職員間で、たまに入居者様にも参加してもらい会議を行い市への報告を行っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、家族等や民生委員、駐在所職員等の出席を得ている。感染症の流行下においては、職員間で運営について話しあった結果を、市担当者に報告し、意見をj得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へは生きがい課、社会福祉課へ定期的に提出物を持参し情報交換を行っている。コロナウィルス発生後は出来るだけ郵送にさせてもらっておりその分電話での情報交換や相談が増えている。	職員は、毎月、市の担当窓口を訪問し、事業所の報告等を行っている。感染症の流行下においては、電話や郵送により、事業所の現状を共有したり、会議の開催方法について相談し、意見や助言を得たりして、連携し、問題解決に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で月1回身体拘束委員会を開催している。身体拘束によって発生する危険性の理解浸透に努めている。自分では気がつきにくい言葉の拘束には職員間でお互いに注意しあっている。	事業所では、月1回、身体拘束委員会と年2回、身体拘束に関する研修会を開催している。日中は、玄関を解錠し、見守りによって、利用者の自由な暮らしを支援している。地域の駐在所職員とも顔見知りの関係を気づき、協力を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修を年2回実施。自己点検シートを用いて「虐待とは？」を常に意識し職員間で互いに注意しあい、ストレスや過酷な業務が虐待につながる危険性など再認識し職員全員で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修を実施している。現在 成年後見人制度を利用されている入居者様がおられ職員も理解出来ている。入居契約時に成年後見人制度の利用についても説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人ご家族の理解と納得が得られるまで丁寧な説明を行うように心掛け納得できない事や疑問点は相談に応じ、契約後でもいつでも疑問点や不安な事は相談してもらえるように雰囲気作りにも努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染症予防の為、ご家族の来訪は出来る限り控えている。電話連絡を頂いた際にご意見ご要望をお聞きし今後の運営に反映するように努めている。	事業所では、家族等の来訪時に、利用者の現状を伝え、意見や要望を引き出している。感染症の流行下においては、家族等の要望に応じて、電話のやりとりの機会を増やしたり、玄関先でビニールシート越しの面会を行ったりしている。その際に、家族等から意見を聞き、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回行っている。それだけでなくその都度職員からの相談にも応じ、職員から出された意見を法人本部へ提案を行い働きやすい職場を目指している。	管理者は、日ごろの支援のなかで、職員から意見や提案を聞いている。職員会議や研修の際にも、提案できる機会を設け、職員の自主性を引き出している。必要に応じて、個別に話を聞く体制もある。週1回、代表者の来訪があり、職員が直接意見を伝えることもできる。出された意見は検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員不足が続いている状況の中、不足している勤務帯を把握し常時募集を行ったり、管理者から現場の状況の聞き取りなどを行い職員からの苦情をすくいあげてくれ意欲的に働けるように努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内での研修を行い、研修後他の職員にも学んでもらえるように伝達研修や資料配布を行っている。外部研修については、コロナウイルス感染症の影響で自粛している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主として同法人の施設との交流となっている。他の同業者との交流はコロナウイルス発生後は電話連絡が多く相互の訪問や勉強会にも参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問時からご本人と関わり不安感をなくすように努めている。アセスメントを行いながらご本人の気持ちを確認し信頼関係を構築していく。その後関わりを深める事により更にご本人からの要望が見えてくる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、ご家族からの要望をお聞きし関わりを深め信頼関係を作っていく。入居された後はホームにお任せではなくご家族とも関わりを続けていただきながらその時々でのご家族の要望をお聞きするよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの要望をお聞きし、要望に沿ったサービス且つ、自立に向けたサービスを様々な角度から支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に同じ空間の中で過ごし馴染みの関係を構築している。出来ない部分をさりげなくお手伝いさせていただき理念に基づき「皆で一緒に支え合う」環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウィルス感染症の関係で、お越し頂く事が困難なので毎月郵送する家族便りにご本人の現況や写真を貼付し確認して貰い電話連絡を頂く事でご家族とのより良い関係が続くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族から今までの友人関係や地域との関わりをお聞きし把握し良い関係が続くように支援している。感染症の影響で知人の来訪は困難だが、買い物支援の予定をしている。	事業所は、利用者のこれまでの馴染みの人や場所の把握に努め、友人や知人の来訪を受け入れている。感染症の流行下においては、手紙のやりとり等を支援している。また、馴染みの店舗での買い物は、職員が代行するなど、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が連帯感を持って協力し合いながら互いに支え合って共同生活が出来るような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人が入院されたり、他の施設に移動になり利用が終了した後でもご本人のこれまでの生活歴や状況、当施設での支援方法などご本人の暮らしが大きく変化しないように相談に乗ったり連携を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活の延長として利用していただけるように生活習慣やご意向など情報収集に努めている。入居時だけでなくホームでの暮らしの中からご本人の思いやご意向をくみ取るようにしている。	事業所は、利用者との日ごろのかかわりのなかで、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。利用者の言葉や表情の変化に注目し、本人本位に検討している。把握した思いや意向は、職員間で共有し、実現に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族からは勿論、入居前に関わった事業者などから情報収集を行い、入居後も出来る限り連携を保ち今まで同様、自分らしく生活して頂けるように努め、ご家族・ご本人と馴染みの関係を築いていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で1人ひとりの暮らしのリズム、心身状態を把握しながら一緒に役割活動をしたり、レクリエーションを行ったりしながら今出来る事を新たに見出すなど現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時に担当者会議にてご家族の意向や職員の意見を聞き目標を作成している。更に短期目標では毎日の達成度を記入し職員全員で把握している。1ヶ月後に担当者がモニタリングを行い見直している。	事業所では、利用者一人ひとりの思いの実現に向けた介護計画を作成している。計画には、利用者や家族等の希望、医師や職員の意見を反映している。毎日の介護記録や月1回のモニタリングで現状を把握し、6か月に1回、計画を見直している。利用者の心身状況の変化に応じた見直しも行き、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録記入時、短期目標に関わる記録だけでなく気づき等も記録するように指導し全員が情報を共有し日々の記録の中で更にその人らしく生活するためには？等新たな気づきを見出すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活を営むにおいて、その時々生まれるニーズは常に付きまとう。そのニーズに柔軟に支援できるように職員のスキルアップに努め、ご家族や関係者と連携を図り柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナウィルスの影響で行う事が困難だが、地域の訪問理髪の利用、地域の文化祭へ出展、地域の保育園へ訪問など地域と触れ合いながら住み慣れた場所で楽しく生活して頂けるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に同一法人の運営する医療機関が主治医となっている事に同意を得、24時間対応が可能な体勢を整えている。必要に応じて皮膚科や整形外科、歯医者といった他科の受診を行っている。	契約時の段階で、利用者や家族等の同意を得て、同一法人の運営する協力医療機関をかかりつけ医としている。専門医の受診時には、家族の協力を得ている。協力医療機関の医師の往診や訪問看護、必要に応じて歯科の訪問診療もある。感染症の流行下においても、協力医療機関と連携を図り、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人の運営する医療機関の看護師と密に連携を図っている。必要に応じ医療の受診が出来る体制を構築している。看護師は週2回訪問してくれている。点滴や注射にもその都度訪問してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活の様子や心身状況等の情報を医療機関と共有している。定期的に面会に行き入院先での状態の把握や医療機関との情報交換を行い、早期退院に向けて取り組んでいる。またご本人、ご家族の不安の軽減に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関する指針を定め、入居時または状態に応じて事業所が対応し得るケアについて説明している。ご本人の状況の変化によりご家族に確認を得ている。	契約時の段階で、重度化や終末期における事業所の指針について、利用者や家族等に説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、意向を確認し、家族や医師、関係者等と方針の共有化を図っている。緊急時のマニュアルを作成したり、勉強会を開催したりして、利用者や家族等の意向にそった支援に組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し事務所に掲示している。全職員がマニュアルを理解し実践できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回避難訓練を実施の他、フロアにハザードマップを掲示。備蓄品を用意しており、実際に炊き出し訓練を行っている。火災時には民生委員の協力をお願いしている。	年2回、消防署や地域住民の協力を得て、避難訓練を開催している。感染症の流行下においては、消防署に状況を伝え、助言を得ている。地域住民には、利用者避難後の見守りについて協力を依頼している。また、備蓄品も整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの尊厳を守り自尊心を傷つけないような声かけや支援に努めている。入居者様各々人格が違い、価値観も違っており十分に把握して対応している。職員同士お互いに注意をしようようにしている	職員は、利用者一人ひとりのその人らしさを大切に捉え、今までの習慣や生活のリズムを継続できるよう支援している。実習生の受け入れ時には、職員も一緒に、人格の尊重とプライバシーの確保について再確認している。さりげない声かけや声かけの際の表情にも留意し、支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者様に問う事を基本としている。まずご本人の意向をお聞きしてから支援を行うように努めている。自己決定が出来ない方、意思表示が出来ない方には表情や行動等で気持ちを読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの入居者様の基本となる1日の流れはあるがその時その時の状況に応じて柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔、整髪、髭剃りなど整容面のほか季節に応じた衣類の整頓やご本人の気持ちに沿った好みの衣類をご本人と一緒に選ばせて頂いたり、必要に応じた介助を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の心身状況に応じた食事形態で提供している。食事を目で楽しみ食欲を引き出すような盛り付けを工夫している。準備、片付けなどできる事はお手伝いをお願いしている。	事業所では、炊飯と汁物を調理している。食事形態を利用者一人ひとりに応じて変更している。盛り付け等は、利用者と職員が一緒に行っている。管理栄養士と相談し、利用者の好みに応じて、献立をリクエストすることもできる。差し入れの柿で干し柿を作るなどして、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はセンターより配送。栄養士が栄養バランスのとれた献立を作成している。体調に合わせ必要な水分量は医師の指示の基飲用してもらっている。食事摂取量や嚥下状態など医師に報告しその都度指示が出る		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員全員が研修を通して口腔ケアの大切さを理解している。毎食後各入居者様にあつた口腔ケアの支援を行っている。夜間は義歯をあずかり洗浄剤に付けて管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により入居者様一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中・夜間共に排泄の声かけや誘導を行い、失禁があってもトイレで排泄できる気持ちよさや、自信につながるように支援に努めている。	職員は、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中は、さり気ない声かけでトイレ誘導し、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。利用者一人ひとりの状況や要望に応じて、居室にポータブルトイレを設置するなど、負担感のないよう排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事、必要な水分摂取だけでなくラジオ体操や歩行や可能な役割活動(自室の掃除)などにより身体を動かしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、ご本人の希望により毎日でも可能である。それぞれの体調やご本人様の意向に合わせて対応している。	事業所では、少なくとも週2回の入浴ができるよう支援している。時間帯についても、できる限り利用者の希望に応じている。利用者の羞恥心にも配慮し、同性介助も行っている。入浴剤を使用したり、季節に応じて、ゆず湯等を行ったりして、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や生活リズムを考慮しながら日中の活動を支援している。生活リハビリや散歩支援など生活リズムの安定化につなげ、夜間ぐっすり安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を全員が読めるようにファイルしており薬の変更があるたび主治医による説明(必要性や副作用など)を申し送っている。薬は職員が管理し手渡しや口へ入れる介助を行っている。こまめな様子観察を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や習慣などを把握し役割活動として手伝ってもらったり趣味活動をそれぞれに合わせて楽しんでもらっている。おやつタイムにはコーヒー、ジュースなど好きな飲み物を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調に合わせて散歩支援を行っているご家族との週1回のお外出を楽しみにされている方や洗濯物干しを手伝ってくださる方もおられる。お花見や菊人形観賞、ドライブなど外出したり、誕生日プレゼントをご本人と一緒に買物に行くなどの支援を行っている。	事業所では、近隣を散歩したり、近所の花壇を見に行ったりして、日常的に外出する機会を設けている。感染症の流行下においても、近くの神社に初詣に出かけるなどしている。敷地内で、かき氷やお茶を楽しんだり、菜園の手入れを行ったりして、外気に触れる機会をつくるなど工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人内で金銭管理の取り決めがあり、ご本人が金銭を所持する事は出来ないがご本人の希望によりご家族の了承のもとで好きな物を購入したり職員が代行で購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご親戚から毎月の様に電話連絡があったり、ご本人が希望された時は連絡を取らせてもらったりしている。毎月郵送する家族便りにご家族へメッセージを書きませんかとお聞きしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、開放感のある空間が提供できるようにしている。不快感を招かない様に清潔にし適温を保っている。菜園では野菜を育てたり干し柿をつるしたりゴーヤで緑のカーテンを作り季節感を感じてもらっている。	共用空間は、利用者と職員で清掃を行い、清潔を保っている。壁面には、季節の飾りや写真を掲示し、季節を感じる事ができるよう工夫している。廊下にホワイトボードを設置し、職員がイラストを描いたり、利用者が食べたいものや一言を書き込んだりして、交流できるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではテレビを見たり音楽を聴いたりソファでくつろいだりとそれぞれ思い思いに過ごされる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や趣味等の持ち物がある方には持ち込んでもらっている。居心地の良い空間作りを支援している。	居室には、利用者の使い慣れた家具や調度品、家族の写真、趣味の作品等を持ち込んでもらっている。安全面に配慮して、家具の配置を行っている。その人らしく、温かみのある居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の前には自分の部屋がわかるように絵やのれんや折り紙で折った花をつけて間違いが少なくなるように工夫をしている。手摺のある廊下もまっすぐで死角が少なく安心して移動できるように工夫されている。		